

# 連合長野【12月】



2010.12.1  
No.321

発行/日本労働組合総連合会  
長野県連合会  
発行人/中山 千弘

〒380-8545 長野市県町532-3 労働会館3F TEL 026-234-1626 FAX 234-1349  
E-mail info@rengo-nagano.jp http://www.rengo-nagano.jp/

働く者のために頑張る！  
すべての

## 第22回年次大会開催！ —「信頼される労働組合」を目指して—

連合長野は10月28日、長野市内において第22回年次大会を開催した。「すべての働く者の連帯で、希望と安心の社会をつくろう」をスローガンとした今大会には、各界からの来賓、連合長野役員、各構成組織からの代議員、女性特別代議員、地協特別代議員、傍聴者など、約260人が参加し、「2011年度運動方針(案)」、「2011年度予算(案)」を中心的な議題として、積極的な討議が行なわれた。



議案提案に先立ち、連合長野ふれ愛資金カンパ贈呈式が行われ、社会福祉法人山ノ内町社会福祉協議会の会長畔上善治様、続いて社会福祉法人中信社会福祉協会の宮坂典男様、あしながPウォーク10実行委員会副実行委員長の丸山博史様に目録が贈られた。

その後、「一般活動報告」、「2010年度会計決算報告・決算剰余金処分(案)」、「2010年度会計決算監査報告」に移り、すべての報告が承認された。

続いて議案審議に入り、「第1号議案:2011年度運動方針(案)」、「第2号議案:2011年度予算(案)」、「第3号議案:連合長野規約の改定(案)」、「第4号議案:大会特別決議 労働者派遣法改正法案の早期成立を求める特別アピール(案)」、以上すべての議案が満場一致で承認された。

最後に、「大会宣言(案)」が採択され、近藤会長による団結ガンバローで閉会した。



冒頭、あいさつに立った近藤会長は、「『社会の安心・安定のためには、労働組合は欠かすことのできないインフラ』といった認識に立ち、あらゆる活動の基軸として取り組みを強化していかなければならない。変化する時代に的確に対応しながら、すべての働く者の期待に応える運動を職場や地域で創り出していくという共通認識のもと、心一つに頑張っていこう」と述べ、2011年度に向けた決意を表明した。

## <運動方針に対する質疑・応答>

JAM甲信：池内 代議員

Q：貸金データプログラム資料について、発行部数が多すぎるような気がするが。他の印刷物・配布物も含め、適切な発行部数を検証すべきではないか。

A：配布資料の現状を把握し、適切な部数にしていきたい



JAM甲信：池内 代議員

農団労：内村 代議員

Q：年金保険や医療保険等の社会保障制度全般にわたる抜本的な改革に対し、労働者の意見を幅広く集約し連合政策課題の中心に据えるべき。

A：これまでも重要な政策課題として連合本部に対し具申し込んでいる。今後、皆さんからのご意見を踏まえ、連合長野としての政策をまとめ政策提言をしていきたい。また、民主党に対しても、長年の提言により実現した定期懇談・実務者協議などの機関で訴えていく。



農団労：内村 代議員

私鉄総連：二本松 代議員

Q：地域公共交通は、地域の経済社会活動にとっての重要な基盤であるが、行き過ぎた規制緩和とともに、利用者は長期的に減少傾向となっており、その持続的な運営は危機的な状況にまで達している。



私鉄総連：二本松 代議員

私鉄総連も維持・存続に向け、全力で取り組んでいるが、連合長野としても更なる支援をお願いしたい。

A：地域の公共交通を将来にわたり、維持・存続していくためには、当該労働団体や行政・交通事業者だけではなく、地域住民を挙げて取り組んでいくことが必要である。連合長野としては引き続き「乗って残す、乗って活かす公共交通」との視点で、公共交通の持つ意義や重要性を広く伝え、利用促進に向けた意識の醸成を図っていきたい。

## 長野県知事に緊急要請

### ～「希望と安心の社会づくり」 へ向けた経済対策を求める～

連合長野は、11月26日に県庁にて長野県知事宛の「希望と安心の社会づくりへ向けた経済対策に関する要請書」を近藤会長から阿部知事に手渡した。近藤会長は「日本経済は一部の経済指標において改善の兆しは見られるものの、デフレの継続・円高の進行などの影響で依然として先行き不透明な状況にあり、勤労者の生活・雇用情勢は改善の兆候が見られないまま推移している。特に、今回要請する4項目については、地方自治体としても積極的な取り組みが極めて重要である。それぞれの趣旨に沿って統一的な政策実現が図られるよう十分配慮して欲しい」と強く要請した。阿部知事は「県としても取り巻く情勢については共通認識にある。また、今回の提言内容についての重要性も十分に認識している。本日の要請を踏まえ出来得る限りの対応をしていきたい」とコメントした。



#### 【主な要請内容】

1. デフレ脱却・消費回復に資する経済対策と雇用創出・人材育成
2. ワークルールの確立による「ディーセントワーク」の実現
3. 社会的セーフティネットの強化
4. 公正な取引関係の実現



## 10/13「ディーセントワーク世界行動デー 2010 in 長野集会」450名が参加



「人間らしい仕事と生活の実現を求めるディーセントワーク世界行動デーin 長野」の集会および街頭行動を実施し、各構成組織、地域協議会などから約450人が参加。集会では、非正規労働者の立場から発言があり、非情な労働条件・処遇等の実態が報告され、今、ディーセントワークの実現に向けて何をすべきなのかを訴えた。その後、「“人間らしく働ける社会の実現!”を訴える街頭アピール行動」を行った。



## 11/14「あしながPウォーク10」

遺児学生らが全国47都道府県(約60コース)で開催するボランティアウォーク。連合長野より48名が参加し、10キロのコースを、国内外遺児のことを考え支援の輪を広げながら、フィランソロピー(やさしい人間愛)社会の実現を目指した。連合長野はこの活動に累積で260万円を寄付している。





## 11/13 青年委員会第21回定期総会



2010年度の経過報告と新年度の活動方針・新役員を決定。総会後には意見交換会を開催し、職場の悩みや組合のあり方を論議し、交流を深めた。



## 11/6 第4回金属部門連絡会

「親子ものづくり教室」に16組-37名の親子が参加



次世代を担う子どもたちに、「ものづくり体験」を通じて、ものづくりの楽しさを感じてもらおうと、長野日本無線(株)において開催。親子で語り合い協力しながら作業を開始し、約60分後にはモーター動力の「プロペラカー」を完成させた。



講堂に移動して広いフロアの上で実際に動くのを目にすると大きな歓声があがった。

子供たちには、ものづくりの楽しさを知り、いろいろなものづくりに挑戦して、長野県のものづくり産業を担う人材が陸續と出ることを目指している。

